

きざき

太田市立木崎中学校
学校だより 第4号
発行責任者 添田 良之

新型コロナウイルス感染拡大の影響で3年ぶりの実施となった修学旅行に3年生たちは6月16日から2泊3日の日程でいってきました。京都・奈良でたくさんの文化遺産に触れてきました。

初日は平等院、法隆寺、東大寺を訪れました。どこも観光客は少なく、落ち着いて建造物の見学をすることができました。十円玉のデザインの鳳凰堂、最古の木造建築物である法隆寺の荘厳さ、想像を絶するほどの東大寺大仏の雄大さを目の当たりにしました。

2日目は、班別の京都散策です。浴衣を着たり、陶芸をしたりと、京都のよさを満喫できたようです。帰着時間



東大寺



伏見稲荷大社

に遅れることなく、たくさんの土産を手に戻ってきました。

3日目は、バスによる京都の見学です。竜安寺の美しい石庭、黄金に輝くまばゆいばかりの金閣寺をじっくり眺めることができました。また、北野天満宮では昇殿参拝をし、進路実現の祈願をしました。

コロナウイルスに対する不安はありましたが、万が一の場合を考え、できる備えは全てして臨みました。生徒と保護者の皆さんの細心の注意があったおかげで

無事実施することができました。ありがとうございます。今後の行事も、万全のコロナ対策を施したうえで実施し、多くの方にご覧いただきたいと思ひます。

よろしくお願ひします、PTA新本部役員さん

濱田谷枝会長を中心とした令和4年度PTA本部役員が、6月24日の企画委員会から本格始動しました。最初に取り組む大きな行事は、8月20日(土)に行われる資源回収です。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で3年ぶりの実施となります。地域の皆さまのご協力をよろしくお願ひいたします。



威風堂々、少年の主張太田市大会に参加！

少年の主張太田市大会が6月25日に行われました。木崎中学校を代表して3年生1名が参加しました。大変立派な主張でした。その内容を紹介します。

自由に生きる

皆さんは自由について考えたことはあるだろうか。

私は最近自由について考えることがあった。それは、LGBTの本を読んだことがきっかけだった。最近テレビを見ていると、SDGsという言葉をよく聞く。SDGsとは、2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指すという国際目標のことで、17個のゴールがある。そのゴールの一つに、LGBTに関する物があった。そこで、私はLGBTについて興味を持ち図書館で借りて読んだのである。

私は本を読み終わったときに、なぜ自由に自分の性別を決めることが認められないのだろうと思った。

私は、自分の性について、どちらでも有りたいと思う。今まで、自分の性について考えてきたことはなかったが、私は、そこまで女の子らしいことをして来なかったと思う。だから、女の子として捉えてほしいかと言われればそんなこともない。このように私は自分の性について自由でいたいから、他の人も自由に決断できればいいと思う。そして、その決断を私は受け入れたいと思う。

だが、この本を読み、自分で性を決め、そのとおりに生きることは他の人たちには受け入れられないこともあるということを知った。自由に性を選択することがなぜ否定されなければならないのかと疑問に感じた。LGBTの本には私の知らなかった性自認があった。そして、実際にLGBTである人の言葉があった。友達や家族にLGBTを打ち明けるには勇気があること、自分がLGBTだと言えなかったということだった。

私も、もし友達や家族に否定されるかもしれないと思うと言えないだろう。今は、生徒会などで活動していることで、自分の考えを持ってそれを提案するということができるようになった。しかし、できるようになったのは周りの人たちが暖かく、否定せずに受け入れてくれる環境があったからだ。

昔は理解されなかったLGBTも、今では少しずつ受け入れられてきている。海外では自由に結婚することも認められていたり、日本では130の自治体で同性パートナーシップ制度を行っていて、同性同士のカップルが認められている。LGBTの人は、打ち明けたことで不安がなくなった、本当の自分で生きていくという希望があることで、人生を前向きに捉えることができたと言っていた。このように、自分に正直に、そして、自由に生きることができたら楽しいだろうと思う。だから、私は自由について考え、自由に、自分らしく生きるということはこれからの社会に大切になるだろうと思った。

自由というのは難しいことで、自由だからと言ってすべてが許されると考えるのは間違いである。許されることと、許されないことがある。許されることなのか許されないことなのか、しっかり判断していかなければならない。だから、自由という言葉について一人ひとりが考え直し、相手への思いやりを持って行動したり発言したりしていくことが大切なのだ。自由に生きるということは、考えた今でもわからないし、正解だって正しく定まっているわけではない。いままで、私は自分で選択をすることや、自分の意志を貫くことが嫌いで、苦手だった。だが、LGBTの本を読んで、自由に自分だけの考えを持ち、生きていくということは、とても素敵なことで、幸せなことだと知った。

私達が幸せに過ごすことができ、より良い社会にしていくためには、自由に過ごすことのできる周りの環境も大切になってくるだろうと考えられる。だから、相手が自分と違う考えでもその意見を尊重し、相手も自由に発言したり、行動したりすることができるような環境になるように思いやる心を持って、生きていこうと思う。そして、私も少しずつ自分の意志を強く持って、自分らしく自由に生きていきたい。

